

再評価結果（平成24年度事業中止箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	地域高規格道路 伊那木曾連絡道路 一般国道361号 姥神峠道路（延伸）	事業区分	地域高規格道路	事業主体	長野県	
起終点	自：長野県木曾郡木曾町日義宮ノ越 至：長野県木曾郡木曾町日義神谷			延長	3.5km	
事業概要 一般国道361号姥神峠道路（延伸）は、同県伊那地域集積圏と同県木曾地域集積圏を相互に連絡し、長野県の中央自動車道や一般国道19号、一般国道153号と一体となって広域的な道路ネットワークを形成する地域高規格道路「伊那木曾連絡道路」の一部を構成し、地域間の連携と広域交流を促進する延長3.5kmの事業である。						
H14年度事業化		H 都市計画決定		H 年度用地着手		
H 年度工事着手						
全体事業費	125億円	事業進捗率	2%	供用済延長	0km	
計画交通量	5,800台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.4	総費用 (残事業)/(事業全体)	95/95億円	総便益 (残事業)/(事業全体)	134/134億円
	(残事業)	1.4	事業費 維持管理費	94/94億円 1/1億円	走行時間短縮便益 走行経費減少便益 交通事故減少便益	98/98億円 27/27億円 8/8億円
感度分析の結果 -						
事業の効果等 (1) 広域幹線道路網の形成：地域高規格道路「伊那木曾連絡道路」の整備により、長野県伊那地域と木曾地域を結ぶ広域道路ネットワークが形成され、地域間交流が促進される。 (2) 災害時におけるリダンダンシーの確保：一般国道361号は、中央自動車道や一般国道19号の代替路としての機能を有し、中京圏から長野県、北陸圏の交通軸のリダンダンシーを強化する。 (3) 医療ネットワークの充実：不通区間であった権兵衛峠道路、姥神峠道路の供用後、特に脳外科関連重傷患者の搬送時間が短縮されるなど、一般国道361号の整備により、医療ネットワークが充実する。 (4) 地域活性化の支援（就労）：不通区間であった権兵衛峠道路、姥神峠道路の供用後、通勤圏が拡大され、一般国道361号の整備により、地域活性化に寄与する。 (5) 安全・安心な交通の確保：姥神峠（延伸）工区の整備により、道路線形の改善による交通事故の減少や、災害に対する安全性の向上等により道路としての信頼性が向上する。						
関係する地方公共団体等の意見 木曾広域連合、上伊那広域連合、南信州広域連合から構成される長野県南部国道連絡会より、事業促進の要望を受けているほか、沿線の市町村で構成される国道361号改修促進期成同盟会からも事業促進の要望を受けている。						
事業評価監視委員会の意見 長野県公共事業評価監視委員会： 基礎的な生活基盤や社会情勢や交通環境などを多角的に見た上で、現時点では「一時休止」を妥当と判断する。なお、県においては、高規格化を図る緊急性等を見極めながら今後、事業再開の可能性を判断されたい。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 本路線については、不通区間であった権兵衛峠道路、姥神峠道路が平成18年に供用し、地域ネットワークを形成する道路として、現道を活用することで、一定レベルの機能を有した。また、現道も概ね2車線での整備、及び防災・安全対策がなされ、交通機能の面や安全性等が、一定レベルの機能を有した。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成14年度に事業化され、事業進捗は約2%、用地取得には至っていない。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 当該区間（木曾町日義神谷から国道19号間）は現道を利用することにより交通が確保されるため、交通不能区間であった権兵衛峠道路、姥神峠道路の供用開始に重点投資してきた。						

